

日々の田高（防火扉を活用した避難訓練を実施しました。）

生徒会執行部から実践的な避難訓練をしたいという提案を受け、避難訓練を担当する総務部の教員と生徒会執行部の生徒が相談をして、防火扉を活用した避難訓練を実施しました。

当日は、特別教室棟2階の調理室から火災が発生したという想定で、校庭への避難を行いました。生徒たちは、普通教室等の階段で1階まで降りて校庭に出ます。

特別教室棟の2階が出火し、煙感知器が感知すると、感知した区画を遮断するために、この区画に接する防火扉や防火シャッターは、自動的に留め具が外れて閉まります。

今回は、予めメンテナンス会社と相談し、防火扉を閉め、防火シャッターの位置にはホワイトボードを置き、シャッターが降りることを明示して対応することになりました。

生徒たちは、校庭から教室に戻る際に、防火扉や防火シャッターが閉まる状況や防火扉に付随する「くぐり戸」を通る経験をしてもらいました。

また、自分の教室の階から出火した場合に閉まる防火シャッターや防火扉を考え、避難ルートを考えるワークを実施、生徒会執行部の生徒から、校内放送で解答例と今回の訓練に至った思いなどの話がありました。



校庭に避難します



消防署の署員から講評と講話をいただきました



校舎内が汚れないように、美化委員が雑巾を用意



防火シャッターが下りる箇所を疑似的に表示



閉まっている防火扉に向かいます。



くぐり戸をあけて区画から外に出ます。

＜生徒会執行部のコメント＞

「今回の避難訓練では普段とは違い、防火扉や防火シャッターを体験し、課題にも挑戦して、防災への意識を高めることができました。自分や周りの命を守るためにも、もっと関心をもって避難ルートの把握をしていきたいと思いました。」

「火災が起きた時に防火シャッターや防火扉が火元の区画が閉まるということを知ることができた。近年、モバイルバッテリーの発火が増えているので教室が火元になる可能性があるのでどのように自分たちが避難すればよいか自分事として考える良い避難訓練になったと思った。」



＜避難訓練担当の先生方のコメント＞

生徒会執行部から「防火扉や防火シャッターを実際に作動させた避難訓練を実施できないか」という提案を受け、生徒会とともに今回の訓練を計画しました。調理室で火災が発生したという想定のもと、避難後にどの防火シャッターが閉まるのかを実際に歩きながら確認することで、説明だけではわかりづらい状況を具体的にイメージすることができたと思います。また、防火シャッターが閉まることで通行できなくなる場所がある怖さや、跨いで通る必要がある防火扉のくぐり戸の注意点を体験的に理解したことで、生徒たちの防災意識が一段と高まったと感じています。さらに、ワーク実施後には生徒から避難経路に関して多くの質問が寄せられ、自分の命を守るために主体的に考えようとする姿が見られました。今回の訓練は、火災に伴う様々な危険について考える視点を深めるうえで、生徒にとって大変有意義なものになったと感じています。

今回は、初めての実施で、実施運営するまでの課題が見えてきました。次の機会に向けて、反省点や改善点など生徒とアイデアを出し合いながら、準備をしていきたいと考えています。